



第663号

ジオスペース館だより

ステラナビゲーター11を使用して作成

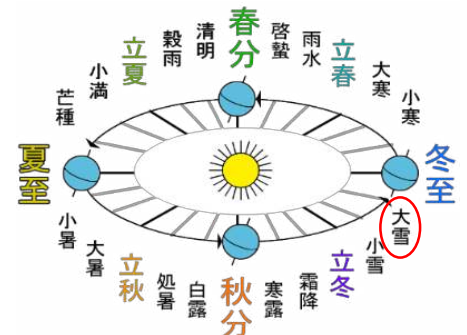
★ 今月の星もよう ★

12月中 旬夜8時頃の星空は、西の空にはまだ、夏の星座「はくちょう座」が見えています。《秋の四辺形》は南西に傾いて、東の空には冬の星座たちが登場してきました。南の空には「うお座」や「くじら座」が横たわり、その上に「おひつじ座」「さんかく座」が並んで、天頂付近には「アンドロメダ座」と「ペルセウス座」、さらには「ペガサス座」「カシオペア座」「ケフェウス座」が、『古代エチオピア王家』の壮大な物語を繰り広げています。明るい星は少ないですが、じっくり秋の星座が楽しめます。これらの星座はどれも古代ギリシャから伝わる星座で、ギリシャ神話に登場する有名なキャラクター達ばかりですが、たったひとつ「さんかく座」だけは物語が伝わっていません。「さんかく座」は古代ギリシャでは『デルトン』と呼ばれ、これはギリシャ文字の大文字Δ（デルタ）のことを指しています。



★ 二十四節気・12月7日は《大雪》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。12月上旬の節気は《大雪》と呼ばれ、毎年12月7日頃になります。《大雪》とは、文字どおり、雪がたくさん降る時期という意味で、木の葉はすっかり散って、風はさらに冷たくなり、本格的な冬が始まる頃です。雪が降る地域が増え、スキー場がオープンしたり、クマやカエルが冬眠に入る季節でもあります。



二十四節気と、太陽と地球の位置関係

★ 12月4日、金星が最大光度！

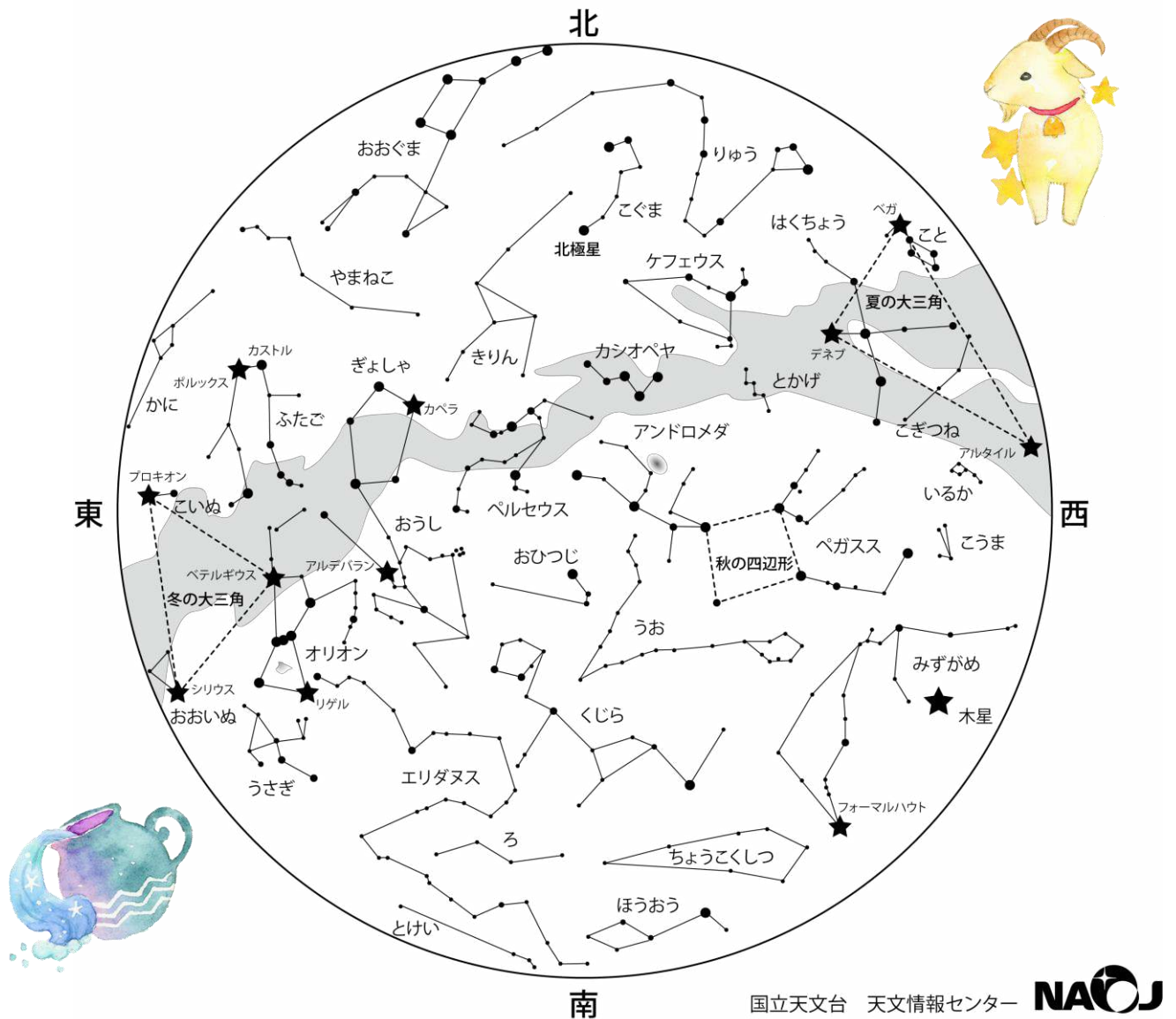
この時期、日の入り後の南西の空に輝く、「宵の明星」金星。12月4日には、金星の明るさが最大（最大光度）となり、マイナス4.7等（1等星の100倍以上の明るさ）で光り輝きます。そして、12月に入ると、夕暮の空で、西から金星・土星・木星の順に、並んで見えるようになります。夕暮の空に並び、明るい惑星たちを見つけて、観察してみましょう。

さて、12月13日から15日にかけて、三大流星群のひとつ「ふたご座流星群」がピークを迎えます。月が沈んでから明け方にかけての時間帯が見ごろで、最も多く見えるのは13日の深夜過ぎから明け方まで。1時間に最大40～50個の流星が予想されています。また、月明かりの中でも明るい流れ星は見るができます。



- ★ 12月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★
- ★ プラネタリウムのお休み 12/6(月)、13(月)、15(水)、20(月)、27(月)、29(水)～31(金)
- ★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

12月上旬午後9時頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 12月上旬の主な天文現象

3日 (金)	あさかた かせいしよく 朝方の火星食	8日 (水)	とせい 月と土星が接近
4日 (土)	しんげつ ● 新月	9日 (木)	もくせい 月と木星が接近
	きんせい きさいだいこうど 金星が最大光度 (−4.7等)	11日 (土)	じょうげん げつめん エックス み ● 上弦、月面 X が見える
7日 (火)	だいせつ ほそ 大雪、細い月と金星が接近	14日 (火)	ふたご座流星群が極大

★ 国際宇宙ステーション (豊川での主なデータ 12/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇	12月 6日 (月)	[見やすさ △]	18:21 北西	~	18:23 北北西
◇	12月 7日 (火)	[見やすさ ◎]	17:34 北北西	~	17:39 東
◇	12月 8日 (水)	[見やすさ ◎]	18:23 西北西	~	18:28 南
◇	12月 9日 (木)	[見やすさ ◎]	17:36 北西	~	17:42 南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。